

広がる融合研究の世界

— 医学 × 細胞生物学 × 数学 —

●講演：中村 直俊（京都大学大学院医学研究科・ゲノム医学センター・統計遺伝学教室・研究員）

医学部を卒業した後の医師の進路はさまざまで、一人ひとり異なります。臨床一筋の人も多いですが、大学院に進学するなど、一時期もしくは継続的に、研究活動に携わる人も沢山います。

しかし、私もかつてそうでしたが、大学入学前の皆さんにとって、研究する人生とはどういうものなのか、イメージが湧きにくいのではないかと想像します。

この講演では、私の話や、いろいろな進路をたどった私の友人の医師たちの話をお伝えすることで、皆さんがご自分の進路を考える助けになればと思います。

私自身は、主に基礎医学の文脈で、細胞生物学と数学をつなぐ仕事をしてきました。最近では医療データのデータ解析にも携わっています。研究とはどういうことをするのか、それにはどういう能力が求められるのか、その一端をご紹介します。



▲フランスで行われた国際学会での発表の様子(2018年3月)



■プロフィール：中村 直俊（なかむら・なおとし）

東京大学医学部医学科卒業。
 東京大学大学院医学研究科博士課程・機能生物学専攻修了。博士（医学）。
 理化学研究所・発生再生科学総合研究センター（現・生命機能科学研究センター）を経て、現在、京都大学大学院医学研究科・ゲノム医学センター・統計遺伝学教室・研究員。
 「細胞マルチポラリティのパターン形成の数理モデリング解析」

「1 細胞遺伝子発現解析と数理モデリングによる、多能性幹細胞の細胞間ゆらぎの解析」研究代表者。

元 * K会数学科講師（1996～2001）

* K会：河合塾が主催しているトップレベル生を対象としたコース

受賞歴等

- 1994年 第4回 日本数学オリンピック 川井杯・金賞
- 1994年 第35回 国際数学オリンピック 香港大会 銅メダル
- 2007年 第49回 日本平滑筋学会総会
Excellent Research Award

❖ 医師を志す皆さんへ ❖

研究というと、コンピュータの前に一日中向かっているイメージや、試験管とピペットを使ってひたすら実験をしているようなイメージを持つかもしれません。一面ではそれは正しいのですが、実際には異なるスキルを持った他の研究者と協力して研究を実施したり、いろいろな立場の人に対して成果を説明したり、売り込んだりすることも多く、臨床とは違った意味で、人間力の必要な仕事です。

医学部卒業後の進路について考えてみたい方や、広い意味での研究活動に興味のある方を歓迎します。

10月22日(月) 18:40～20:10

翹町校 8階デルファイホール



入場無料
申込不要

- 〒102-0085 千代田区六番町 1-3 ☎0120-192-599
- JR 総武線・東京メトロ有楽町線・南北線・都営新宿線 市ヶ谷駅下車 3番出口徒歩 3分
- JR 中央線・総武線 四ツ谷駅下車 翹町口徒歩 5分
- 東京メトロ丸ノ内線・南北線 四ツ谷駅下車 1番出口徒歩 6分
- 東京メトロ有楽町線 翹町駅下車 6番出口徒歩 2分



※どなたでも自由に参加できます。